

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270300740		
法人名	社会福祉法人 うぐいす会		
事業所名	稲毛グループホーム		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町153-1		
自己評価作成日	平成28年1月26日	評価結果市町村受理日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15
訪問調査日	平成28年2月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者・ご家族と密にコミュニケーションをとり、入居者にとって過ごしやすい環境・笑顔が作れると共に、ご家族が気軽に面会等が出来る、入居者との関わりを増やすことが出来るよう努めています。入居者には心身共に維持を図れ生きがい・やりがいを持って1日1日を楽しみ生活していただける様、職員一同、創意・工夫をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

集団生活の中でも利用者毎の意思を尊重し、会話や気づきの中から理解してホームとして出来る事を話し合っている。「何がしたいのか・どうしたいのか」の利用者の声をよく聞き、皆と一緒に楽しめるイベントを多く取り入れて、利用者の生き活きとした笑顔を引き出している。施設長は地域に根差したホームとしての方向性を定め、地域資源を有効活用する活動に、役割意識を高くし地域との連携を強めている。管理職は現場に入って理念に沿ったケアを実践する中で、リーダーシップを発揮し職員の育成に努めている。職員は利用者がその人らしく安心して自立した生活を過ごすための意見を出し合い、利用者・家族と良く話し合っ利用者者を主体とした支援に努めている。また、利用者は、自分の家の感覚で毎日が楽しくなるよう、お互いを支え合い暮らしている。施設長・管理者・職員と家族が連携して、理念に沿ったケアの実現に向けて取り組む姿勢を評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも理念を共有出来るよう、朝礼時に皆で唱和を行なっております。	5つの理念を掲げ、朝礼時に理念を唱和し考え方を共有して日々取り組みが行われている。毎日の状況報告の中で「ケアをこうしよう・どう出来るか」を話し合っている。管理職と一緒に現場に入って実践し部下の育成に力を入れている。多くのイベントが企画され、利用者は自由に出来る事を楽しみ、笑顔が溢れ活き活きとした生活が送れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買い物で近隣住民と顔なじみの関係を構築し、地域での催し物に積極的に参加する事により地域の一員として交流している。	毎日の食材の買い出し時には近所の方と挨拶をし、地域の夏祭りや運動会、町内会の催しに参加して地域交流が行われている。毎月一回、区社協主催の「サロンうぐいす」が開催され、地域の方や家族も参加している。施設長は自治会や区社協の役員として活動し、地域に開かれた施設を目指して取り組んでいる。	地域の情報収集と資源を有効活用し、施設長が取り組んでいる地域と連携した施設作りに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達の憩いの場として第1～4の日曜日を施設を開放しております。月に2回ほどGHの入居者も参加されております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域自治会長、民生委員、区社会福祉協議会、ご家族等の忌憚のない意見をいただき、サービスに反映している	運営推進会議は「サロンうぐいす」の後に区社協・民生委員・地域住民・家族・利用者が参加して開催されている。議事録には、ホームからサービス内容の報告、歩行補助具使い方や認知症の方の地域支援等の話し合い、利用者の笑顔や職員の支援に対する評価等の記録があった。施設内の清掃、清潔について助言を得て運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	千葉市の研修や集まりには毎回参加しており、必要書類は郵送ではなく、持参して意見を交換している	市の担当者とは提出書類を施設長が持参して話し合い、徘徊する人に対する市の高齢者見守り隊に協力している。市のグループホーム連絡会でも意見交換を行って市との連携を図っている。稲毛区のグループホーム連絡会に参加して職員不足等の困っている事例や他のホームの見学等の協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	心身共に拘束の無い様、研修・会議等で学び、全職員で実践に取り組んでいます。	職員は全員身体拘束の研修に参加し、身体拘束は行わない姿勢で取り組んでいる。何かある時は職員同士が気づき、その場で指摘して話し合い改善に努めている。ミーティングでは事例を上げ、言葉の抑止や命令口調等の声のかけ方や利用者の捉え方による関わり方について話し合っ実践に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加し、情報・知識等を共有し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	少しずつ学ぶ機会を設け全職員で理解できるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・施設ケアマネが入居者・家族に契約等の説明して、疑問等はその都度、会話にて対応しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に外部へ説明し事業所入口に書類を置いており、毎月の職員会議で意見・要望を検討している	家族には担当より今月の様子の手紙や季節毎の広報誌で身体状況やイベントの様子を知らせている。家族は運営推進会議に参加して報告以外の施設の取り組みを知り意見を述べている。また、家族の来訪時には担当が利用者の状況を説明し要望を聞き、食事・外出・衣類の購入等の要望に添える努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や提案を聞き、検討している	職員会議では利用者に対する注意点や改善点、不穏な人への対応について話し合っている。利用者や業務のやり方の改善に気づいた時は打ち合わせを行い、無駄を省き利用者への時間を作り、申し送りを行って情報を共有している。管理者は何時でも職員の疑問を聞き、小さな事でもやって見ようと云っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に前向きに職務に取り組むように促しており、職員からの意見を元に環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議時に内部研修を行い、交流を多く持つことで職員の力量把握に努めているが、外部研修には余り行けていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣、市内事業所との勉強会、交流会に多く参加している。職員の相互訪問を行い意見交換もしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集し、要望等に応えられるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とよく話し合い、「何が必要か」、優先順位を見極め、支援出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を人生の先輩として、尊敬の念を持って職員は接しています。入居者に色々教えてもらえる事や、手伝ってもらえる事も多く、お互いに支えあう関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族に施設での様子を「今月の様子」という用紙で報告しています。面会に来られた際も、その時の状況等をお話しして、意見交換に努めています。その他にも季節ごとに発行している広報誌でも施設内の様子を掲載しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係者が来訪しやすいように、職員が関係構築を心掛けており、関係・来訪が継続できるよう努めております。	利用者は施設のユニットや居室が馴染みの場となり、関わる職員が馴染みの人となり家庭となっている。友人の面会があり話をし、家族とは外出をして関係が継続されている。家族には友人を連れてきてくださいとお願いし来訪しやすい雰囲気作りを心掛けている。施設内のデイサービスの祭りに参加し、顔馴染みの人と麻雀を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替え等を行い、色々な人と関われるようにしている。声かけ等でもお互いに思いやりを持てる様な声掛けを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰・別施設への転所等のご支援をさせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前・入所後、常にご本人の意向に沿えるように職員が情報の収集・共有に努めており、ご家族の意向も聞き入れるようにしています。	事業所の理念である、「利用者が仲良く楽しく」を実践するにあたって、職員は出来る限り利用者の話を聞くことに徹し、会話を中心とした希望や意向の汲み取りに努めている。申し送りノートやカンファレンスで情報を共有し、利用者が何をしたい、どの様にしたいかを話し合っ利用者者の満足に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る範囲情報収集を行なっております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、過ごし方・心身状態の把握に努め、連絡帳や申し送り等にて全職員で共有し対応できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が得た情報を皆で共有できるよう意見交換を行なっている。ご本人の為になる、自立支援に向けた介護計画を作成しております。	風呂に自分から入りたいといった利用者の普段と異なる反応や情報などを、職員が申し送りノートに記録し、対応を話し合った結果を参照し、介護支援専門員が介護計画に反映させている。家族からの要望や意見、訪問看護師等の情報をもとに、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その場で気づいた事等をその都度記録に残し全職員が共有出来るようにしている。また、検討も行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されている通所介護事業所の送迎車を借りて買い物・通院等の外出を行い、機械浴・大風呂での入浴など柔軟に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパー等へ買い物や入居者が希望する病院への受診などに同行し地域資源の活用に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望により、入所前にかかりつけ医にするか、施設の連携医にするか相談し、入所後も状況に応じて相談させていただいております。	受診は利用者・家族の意向を尊重し、主治医はかかりつけ医や連携医等、多様な対応を特色としている。訪問医や週1回の訪問看護師とは、日ごろの連携を密にし情報を共有するなど利用者の健康維持管理に努め、緊急時に迅速な対応ができるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携によりいつでも医療と相談できる体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者に都度相談でき、対応ができるようにしている。また近隣の馴染みのクリニックとも常時連絡が取れ、相談・往診等が出来ます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアはご本人・ご家族との相談のもと、しっかりと対応させていただこうと心掛けています。職員も希望に沿えるよう終末期ケアの知識・経験をつめるよう努めています。	看取り等終末期の対応については、契約時に事業所として対応できる範囲を説明し、利用者・家族の理解を得ている。ぎりぎりまで支援し、その時の状況によって家族や医師と今後の対応を話し合っている。終末期のケアについては、研修を通じて職員意識を高め、利用者や家族の安心に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生時に備え、マニュアル検討・情報共有はしているが、訓練までには至っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同訓練は行えていませんが、定期的に消防訓練を行っており、災害時のマニュアルもある。	消防用設備等点検結果報告書に基づき、独自に作成した自主点検チェック項目(火元確認等)を用いて、夜勤者が毎日項目を確認し、火を出さないことを徹底させている。消防訓練実施の際の反省として、夜間災害発生時の避難誘導に課題を残している。また、近隣住民との防火訓練や協力関係について、今後話し合うことが必要と感ぜられる。	施設長主導による、地域近隣との防災連絡会設立構想の早期実現化を期待したい。また、車椅子使用や寝たきり利用者の避難方法を、消防署職員を交えて話し合うなど、職員の防災知識を高める取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の中で一人一人の状態を把握しプライバシー保護・人権尊重に取り組んでいる。施設内研修等を行ない、声掛け等にも十分注意している。	職員は声掛けや介助の際に、利用者の尊厳を守る事を第一に、日々の支援にあたっている。声の大きさ、言葉遣い、視線を合わせ会話が成り立つ姿勢などを意識した支援に努めている。トイレ介助なども、最低限のかかわりで利用者が羞恥心を覚えない支援に徹している。管理者や先輩職員によるOJTで適宜助言をしたり、研修等で話し合い対応の改善を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定・選択の自由が出来る環境に留意し希望に沿うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活なので全てにおいて希望に沿っているわけではないが、一人一人が自分のペースで生活できるよう全職員で努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	過去歴・生活歴、現状のご本人の意思のもと、身だしなみやおしゃれが出来るように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆で食卓が囲め、食事を楽しめるよう、食材・環境に留意し、買い物・調理・後片付け等出来る範囲で行なってもらえるよう支援しています。	その日に食べたい物や調理方法を利用者と話し合い、共に食材の買い出しに行くなど、利用者の食への関与を大切にしている。職員が行う調理の過程をライブショーのように楽しみ、職員は利用者にも味見や配膳など出来ることを導き出すことで食への関心を高めている。外食やイベント食、おせち料理など、変化を持たせ豊かな食生活となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の個々の状態把握に努め、食べる量・栄養バランスを考え提供しています。食事摂取量や水分量等は毎日記録に残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや手伝いにて毎食後口腔ケアを行われ、清潔を保たれております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄間隔・タイミングを把握し、トイレでの排泄を行なってもらえる様、声かけ等行なっています。	排泄パターンチェック表を用いてトイレでの排泄を誘導し、安易なおむつの使用をしない支援を実行している。尿取りパットを必要とする利用者には、個々に合わせたパットサイズ等を工夫するなど、排泄を失敗しないための環境づくりに努め、利用者の排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、飲み物の工夫や乳酸菌飲料・ヨーグルト、野菜なども多く摂れるよう工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて入浴の声掛けを行ない、拒否のある方には時間・日にちを変え無理には行わず、個々タイミングで入浴を行なっております。	可能な限り週2回以上の入浴支援を目指し、職員の勤務体制を整えている。転倒やヒートショック等に留意し、安心してゆっくり入浴できるよう、利用者のペースを大切に介助を徹底している。3種類の入浴剤を用意し、浴槽での会話を楽しむなど心地良く入浴できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意し、ご本人に確認しながら行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情報を職員が見れるようにして共有・理解をしている。管理は職員が行ない、服薬時に渡し、しっかり飲んだかの確認も徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・片付け・掃除等出来る事はやってもらい、役割・楽しみ事になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣スーパーへ食材買い出しに加え、季節に応じた外出・外食しています。天気の良い日には施設近くを散歩しています。	利用者の希望や身体等の状況に応じて、日々の食材や日用品の買い物に出かけ、利用者が皆の役に立っているという意識を持てる外出支援を心掛けている。近くの神社への初詣や花見、幼稚園の運動会、地域のイベントなどに積極的に参加し、外出機会が多くなるよう努めている。家族には、外出先で共に食事するなどの協力を求め、メリハリのある暮らしとなるよう支援している。	日常的に気軽に外出できる利用者は、限られてきているのが現状である。歩行が困難となった利用者に対し、ベランダでの外気浴等ストレスの発散や季節を感じられるよう、日常のごまめな支援の検討が望まれる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々、個々の日用品等の購入に職員と行き、ご自分で支払い等をさせていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員から促すことはしていないが、ご本人の希望があれば、電話・手紙の対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活感が溢れた環境に配慮し、その季節に合ったものを取り入れ季節感を味わってもらえ、不快感無く過ごしてもらえる様工夫している。	壁には、イベントで撮った利用者の楽しそうな顔写真が大きく並べられ、季節感のある飾りつけをするなど、家庭的な雰囲気が感じられる工夫が随所に見られる。リビングでの自立した生活を尊重し、職員が必要以上に対応しないケアを心掛けている。利用者がお互いを受け入れ良好な人間関係を育めるよう、席の配置など環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者の席配置にしたり、色々な所にソファ・椅子を置き、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	違和感なく生活出来るよう、ご自宅等で使い慣れた物や馴染みの物、好みの物をご持参いただき、施設の生活に馴染めるよう配慮しています。	利用者のリクエストを大切に、居室には整理ダンスなど使い慣れた家具や、季節を感じられる物が持ち込まれている。コード類など転倒につながる危険を排除し、安全性を重んじたレイアウトとなっている。また、友人を招き入れてもゆっくり談笑できるよう、十分なスペースがとられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てが自立した生活にはなっていないが、個々の出来る事を職員が把握し、出来る限り自立した生活を行なってもらえる様、努めている。		